

越谷市千間台東の「フリースクール・りんごの木」は今年6月で開設22年を迎えた。NPO法人越谷らりんご(増田良枝理事長)の運営だが、学校教育法の外にあり、公的支援はなく、会費、寄付金や企業・団体からの助成金などで運営されており経済的に苦慮している。

このため、今年度中に認定NPO法人化を目指し、寄付金を集めやすくなるほか、もう一つの学校教育法「オルタナティブ教育法の法制化の実現に向けて全国の有志たちと動き出した。



## 越谷「フリースクールりんごの木」

せんげん台駅東口から歩いて1分場所に、コップをして、過ごしている。

フリースクールの年間運営費は約2000万円。収入は会費と寄付金、声が響き、暗いイメージはまったく無い。現在、小学生から20歳までの39人(市内13人、市外26人)が通う居場所になっている。増田理事長は「たくさ

れぞれのペースで学習している。学習している子どもは通信制高校に所属しており、レポ

フリースクールには公的な支援はありません。子どもの親と、かなりの部分がボランティアであるスタッフと支援者の支えでなんとか続けることができています」と苦しい台所事情を話す。



思い思いに過ごす「りんごの木」の子どもたち

## 公的支援求め、動き出す

### 厳しい運営、支援者頼み限界

### 不登校児童生徒は減少傾向

一度、フリースクールを見に来てくれれば分かると思う。ここはちゃんと大人になれる場だから、フリースクールを学校と

これは、多様な学習ニーズに応じて、学校以外の「普通教育」の学習の場を公教育として位置づけようというもの。

越谷市教育委員会によると、市内の小中学生の不登校児童生徒(年間30日以上欠席者)の数は、2007年度の360人をピークに減り続け、昨年度は224人。同市教委は独自の対応として、適応指導教室「おあしす」を市内3か所に設置し、専門の指導員6人を配置し取り組み、学校への復帰を目指しており、年間約30人が通っている。

市教育センター教育相談担当の宮林美枝子主査は「不登校の原因は様々な要因が重なった複合型になっている。親が身近に相談相手がないなど、子育てに自信を無くしている方が多く、電話相談が増えているのが現状です」と話す。今年10月からは新たにメールによる教育相談も受け付けてきた。

越谷のらりんごは、「フリースクール全国ネットワーク」の一員として、学校の教育法に並ぶ、もう一つの教育法「オルタナティブ(英語で二者択一、代替物の意味)教育法」の実現に向けて動き出す。